

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム出愛荘(1階)		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成30年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって母親の介護にもあつた経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです。利用者様が安心して楽しく笑いを多く毎日過ごしていただけるようにご本人の意見を尊重し日々のケアに取り組んでいます。できるだけ家庭的な環境作りを目指し一緒に過ごす時間や会話を大切にしています。また季節ごとに楽しんでいただける行事を取り組んでいます。採光豊かでゆったりとした空間設計の住環境の中で地域に根ざし気分を満たして生活して頂きたく、職員はお一人お一人の方の気持ちに寄り添いこれからの人生を共にしていくことを共有しています。事業所近所に住んでおられる方が多数入居して下さり、頻回にご家族様も面会に来ていただいております。コミュニケーションを大切に一緒に利用者様のことを考えていける関係作りを努めています。利用者や職員、お互いに助け、助けられの関係を築き支え合う関係になれるようにしていきたいです。利用者様のADL維持、向上、できることの可能性を見つけるため、リハビリ要素のレクリエーションに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者が長年母親の介護にあつた経験から自宅隣接地に開設した2ユニットのグループホームである。理念を「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」と掲げ、利用者が最後まで自然体で暮らせる「住まい」を目指している。人生の最後をここで過ごせて良かったと思ってもらえる様に支援しており、終末期の意志確認や状況変化時に出来る事、出来ない事を丁寧に説明し納得を得たうえで対応している。職員は笑顔で生き活きと利用者の個性を尊重したケアに努めている。レクリエーションへの関わりを増やし、利用者の潜在している能力や思いを顕在化させる取り組みは利用者の意外な一面を引き出し家族から高く評価されている。利用者は月に1回以上開催されるイベントを楽しんだり、居間兼食堂で職員と家族の様に接しながら和やかに生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	理念を玄関や事務所、更衣室等に掲示し、朝礼時に唱和している。職員は理念を理解しており共有して「職員の心得」に則り実践している。理念は利用者家族や入居希望者、その家族に折に触れてアピールしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会祭り、民生ボランティアによるサロンへの参加を継続していて交流をはかっている。職員も自治会役員になっている。	自治会とはボランティアサロンへの参加や事業所行事に地域の人を招いたりして親しく交流している。事業所の関係者2名が自治会の福祉委員に選任されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年から主に介護保険制度についての相談が多くなり、今後の運営において地域サロンのようなことを行ないたい考えを検討しているも進捗状況は停滞している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はレクリエーションに関する報告を中心にご意見を伺っています。	地域包括支援センター、家族、住民代表で構成し年6回開催している。利用者の現況や開催行事、課題への取り組み等を議論している。自己評価、外部評価についても新委員に説明している。	課題解決のモニター役として自己評価、外部評価の活用を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市介護保険課とは、利用者の介護保険更新申請時や資料提出等折にふれ連携に努めている。	この2年間は利用者の入れ替わりが激しく、大津市介護保険課には月に数回訪問して介護保険に関わる多くの相談や指導を得ている。よい連携関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けた研修を基に取り組んでいる。	研修や勉強会で得た知識をユニット会議等で共有し、日常ケアに反映している。施錠は夜間のみで、日中は見守りに徹している。外出する利用者には同行し、本人が納得して帰るまで付き合い支援している。徘徊時に近隣の協力を得る体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に赴いたことを報告して実践に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度において今年度は出愛荘利用者2名の方が制度利用しているため、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただきようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時等にて抽出して、職員会議にて報告して反映に努めている。時には面会時にご意見を伺うこともある	面会時や運営推進会議、職員との食事会(家族会はない)で聞き取り、ユニット会議で検討して反映している。今年度の活動目標「レクリエーションへの関わりを多くする」は家族意見の反映から設定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを問いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	管理者はユニット会議や日常のケアの中で聞き取り反映に努めている。職員は闊達に多くの意見を発信している。年に1回代表者が職員から意見や考えを聞く経営会議を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のケア会議に代表者も出席しているので確認の上、整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修を行ない伝達報告もしており、今年度も内部研修に、研修終了後職員より伝達講習会も催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	継続して近隣のグループホームの方との情報交換や、交流に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々(家族、介護サービス関係者など)直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より言葉、行動から本人の思いに寄り添うよう、笑いあえるように関係づくりに心を掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初はご家族の面会も多いので日々の暮らしの様子を伝えたり、入居前の事前面接では伺えなかった情報を確認したりして関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と面談で当事業所を選んだ理由や、一番何を求めているのかを確認して対応に努めている。ケア対応で必要上、初期面接時より医療的サービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんより「何か手伝いましょうか?」と言われるまでの関係を築くことで共に生活をする「家族」のような関係を目指して関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より心がけ、今年度催す全ての行事には家族の方をお招きし、家族の方と接する機会をさらに多く増やし、家族と職員が気軽に話し合えるような場面多くしてさらなる関係構築をしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は記憶が薄れ、発語もなく寝たきりの方でお世話になっている成年後見人の尽力もあって半世紀以上連絡のやり取りのなかった親子が再会を果たし、その時の表情には喜びがあり、事業所単体でなく、様々な関係者の協力の下で成り立っていることに実感しました。	入居契約時の面談を数回行い、馴染みの人や場の情報を把握している。馴染みの場が遠隔地に有る利用者が多く、家族や関係者の協力を得ながら同行支援出来る様に努力している。四国等への支援事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行、身体状況で言葉が出なくなった方が多くなるも、会話を「聞く」ことはあり、その拾い話に笑顔の表情があり、現在共通して「歌」が利用者で共同作業できるので関係支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去、他所転居になった方にはお見舞いに行ったり、様子を伺うことは継続しています。また、今年は入院退居された方のご家族様が当事業所にボランティアで来てくれることもあり、相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人より日々の関わりの中での会話で希望、意向を導きユニット会議等で整理している。利用者自ら表現困難な方にしぐさ、態度、家族からの意見も参考にして関わっている。	利用者の思いや意向は「私の暮らしシート・生活環境シート」で把握している他、日常的な関わりの中で聞き取り、ユニット会議で話し合い職員間で共有している。利用者の個性を尊重した丁寧な対応での把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接での情報、入居後も利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認、それをもとにユニット会議にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてケアプラン以外の項目についても話し合いその実施、検討内容がプラン化することもある。必要によって、ご家族様、主治医(協力医)、訪問看護、マッサージ師にも相談して反映するように取り組んでいる。	アセスメントシート、モニタリング記録から家族や医師の意見も入れ、ケア会議で検討して作成している。介護計画は3カ月毎と状態の変化があった都度見直し家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して各職員それぞれの意見も参考にして会議等でまとめてその都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭に参列したいなど個々の対応にも職員が同行することでご本人、ご家族様のご要望に沿うよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は恵まれている方だが、願わくば事業所から徒歩圏内で食品店スーパーがあれば「楽しみ」としての支援がもっと広範囲になる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が出愛荘の協力医であるがご家族の協力、要望により長年通いなれた病院の受診、往診を継続している	現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医として月2回の往診を受けている。事情により他院を受診する場合は職員が付き添い支援している。受診結果は受診メモや担当者からの「今月のお便り」で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医系列の訪問看護ステーションの看護師に来ていただいております、適切なアドバイス、対応の仕方をいただいております。また訪看より主治医と確認調整もしてくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人的に見舞いに行く職員も多々あり情報交換を迅速に行なうようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を何う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。身寄りのいない利用者もいるが、その方には権利擁護事業所の協力のもと支援にも努めている	入居時に「事前指定書」「重度化した場合における対応に関する指針」を提示し利用者、家族の承認を得ている。終末期の状況変化時には利用者、家族、医師が協議のうえ対応している。協議内容は記録し家族の承認を得ている。開設以来15名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	動脈血酸素飽和度測定値の導入利用で利用者の呼吸が苦しそうな時の検査で初期対応が迅速にできるようになってきたが、AED装置もあるが、呼吸停止、心停止による対応は実践場面が少ないためその場を経験している職員は少ないのが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2階からの避難時、移乗用ネットで階段を降りる搬送法は現在のマニュアル化になったが、地域の協力を得ているが、また、夜勤者2名、宿直者1名の夜間支援体制でもあるが、夜間避難時の人手などはまだ十分ではないと感じている。	年2回(内1回は水害想定)避難訓練を実施し、1回は消防署立会の下に実施し、反省会を行っている。非常時の避難先としては、近くにあるグループホームと双方助け合うとの話し合いが出来ている。今年は夜間想定での訓練をしていない。	年1回は夜間想定での避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の程度、性格、病状を考えその人に合うであろう言葉使いや対応に心掛けている。またこちらの表情、態度でも人それぞれ感じ方が異なるので配慮も必要と感じる	利用者毎の個性や介護度を勘案して対応している。利用者の思いを受け止める様な言葉掛けを心掛け、職員は互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話で見つれたり、自分の言葉で表すのが難しい方には過去の趣向からこちらで推測して普段使っている言葉遣いで伝えて働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者に全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、出来る限りの本人のペースを大切に日々努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好んで服を選べない方が大半なので、職員より身だしなみは気をつけている。人によっては化粧品使用継続している方もいる。理美容は近所の美容院に行くこともあれば、訪問してもらうこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対応できる方が今年は3~4名と増えていて、座りながら、立ちながらとそれぞれの作業に関わっています。	配食を利用し担当職員が検食している。週2回は事業所で手造りしている。職員は介助しながら利用者と同じ食事を摂っている。利用者は職員との会話やイベントでの夕食、誕生会の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食べ方のリズムに特徴ある方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している。医療上食事制限ある方にも別に専用食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者対象に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている対応で失禁率を少なくしているが、尿意を感じてトイレに行く行程の自立支援の対応はなかなか難しいです。	失禁率を少なくするには体を動かす事が大切との考えから歩行困難な利用者にも極力歩いているのトイレ誘導を支援しているが改善までには至っていない。4名の利用者は夜間時ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自分で体を動かすことができなくなったり、声も出なくなった方には便秘対応には乳製品飲料、下剤薬を必要としている。下剤薬量はその都度本人に合わせるように調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在血圧、体温測定で通常より変化ある場合は見送るなどしている。目安として2~3日に1回の入浴対応である。自発的に自ら申し出られる方は2名いらっしゃる。	週に2~3回の頻度で昼間に入浴する。1階はリフト浴槽で2階の介護度の高い利用者も入浴する。基本は同性支援だが利用者の了解を得て異性支援も行っている。利用者は職員との会話や季節の柚子湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦ベット横にさせて体を休ませる方もいる。エアコン使用の季節時の温度環境には気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、いつ服薬したかの時間も記録にする方もいて慎重に対応を心掛けている。急変時の追加薬、頓服薬には主治医、かかりつけ薬局にも相談対応を心がけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今日々の日課作業の関り強化に、今年度はレクリエーションの関り強化も目標に関わっているため、充実した生活送ってもらうように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制が整えば、月に2回は、地域の「ふれあいサロン」へ出かけている。近くの神社等散歩などができるように支援して、利用者の反応が最も好評的である。ドライブでの遠出の機会も提供している。	天候が良い時は近くの神社や小・中学校の周辺を散歩している。花見ドライブや琵琶湖花火大会、レストランでの食事会等季節毎の外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には個人で自身の財布、小銭程度はあり、手元にあるだけで安心を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持参されている方もいて自ら連絡したり、事業所からはお便りを通じて様子を伝えたり、ご家族からの手紙がきて利用者に渡し、返事を希望する時は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を配して採光をよくして、そこに小鳥も来て観賞している。玄関、屋内廊下、リビングなどに日々の写真、リビングから流れる音楽や映像と様々である。季節柄に雛人形、クリスマスツリー等も並べます。	中庭が見え季節が感じられる居間兼食堂は明るく広い。壁には季節に応じた利用者や職員の作品を飾り、くつろぎのスペースとして和室も設けている。エアコン、加湿器を備え居心地良い空間となっている。トイレや浴室は清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士、リビング⇄居室間の自力移動しやすい生活導線に配慮と様々な理由からテーブル配置、ソファ位置、喫煙所等を決めていて、そこから自ずと利用者まかせの雰囲気でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使い慣れた生活用具(タンス、イス、中には仏壇もある)の持ち込みをご家族にお願いして出来るだけ自宅に近い雰囲気でも生活していただけるよう努めている	電動ベッド、エアコン、換気扇、クローゼットを備え付けている。馴染みの家具、思い出の写真等やテレビを持ち込み、自宅で暮している気分になる様な工夫をして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には名札と顔写真をつけて自分の居室である自覚をされたり、ベッドの高さや位置、物の配置を各個人が安全で使いやすいように考えて、状況に応じてその都度変更も応じている。(立ち上がりや歩行の転倒がないように配慮)		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	震災時において避難・搬送方法をどのように行なうか	利用者にケガなく安全な搬送方法を見出し、また搬送後の災害時等により出愛荘が施設機能不可時の利用者様の緊急引き受け入れる場所の確保などの調整をつけていきたい。	2階から1階へおりの時の利用者にケガなく安全な搬送方法をマニュアル定着するものがあるが、更なる方法がないか検討していく。そして近年、利用者様のご家族様も出愛荘近所の方が多くなったので緊急引き受けとしての協力依頼もしていきたい。	12ヶ月
2	48 49	利用者の日々の生活に笑顔や楽しく過ごしてもらいたい	現状生活から更なる充実感を達成していきたい	昨年度より開始したレクリエーションで定期的なレクリエーションは定着してきたので、各職員が様々なレクリエーション行える種類を増やしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。